くまやく健康だより

発行：一般社団法人 熊谷薬剤師会　　市内全小・中学校配布 ―― 2021年11月 1 日　　第56号

学校薬剤師の活動　秋の定期検査を行いました

秋といえば、学びの秋、読書の秋、芸術の秋、スポーツの秋、実りの秋ともいうように様々なことが思い浮かぶことでしょう。この秋をどのように過ごすか、児童・生徒の皆さんには充実した毎日を過ごしていただきたいと願っています。

さて、この秋には学校薬剤師は皆さんの学校に出向いて、「採光および照明環境検査」、「黒板の管理検査」、「学校給食施設等定期検査」を行いました。以下のような基準が定められていますので環境が適正かどうかを確認し、学習しやすい学校環境の保持に努めています。

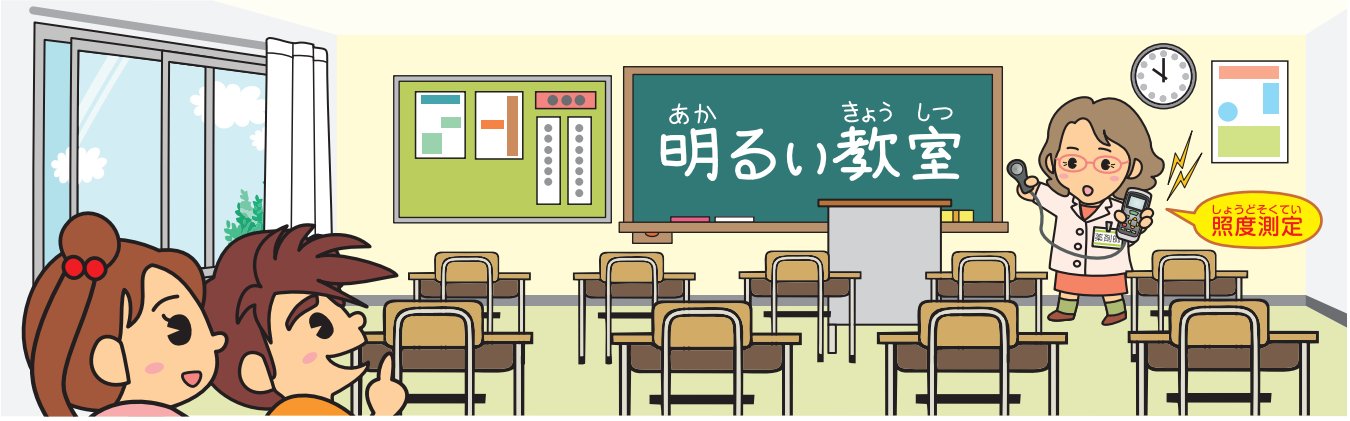
- 教室の照度の下限値は300lx（ルクス）。
- 教室および黒板の照度は500lx（ルクス）以上が望ましい。
- 教室および黒板の最大照度と最小照度の比は、20：1を超えない、10：1を超えないことが望ましい。
- まぶしさ（グレア）については、黒板の外側15度以内に輝きの強い光源（窓あるいは照明）がないこと、黒板面および机上面に光沢がないこと。
- まぶしさの有無は、黒板面、机上面、PC画面を検査する。
（電灯や明るい窓等が画面等に映りこんでいないこと）。
- コンピューター教室等の机上の照度は、500 ～ 1000lx程度が望ましい。
- 黒板面は使用による摩耗や掃除状況も確認、黒板消しの掃除状況も確認します。

※PC画面：電子黒板、プロジェクタースクリーン等の大型モニターも含みます。

●照度が不足している場合の対応策
外部より照度を障害するもの（建造物、樹木、山など）の有無とその状況の確認、電灯の掃除、電灯の交換や増設等。

●明るすぎる、まぶしさがある場合には、カーテンを開閉するなど。

- 給食施設は学校給食センター受配校と自校式（各学校ごとに調理をする方式）により異なりますが、調理等に携わる方々の健康状況の記録、食材の記録、その他の日誌等を確認するなど、検収、保管、配膳、衛生管理体制まで多くの項目を確認します。

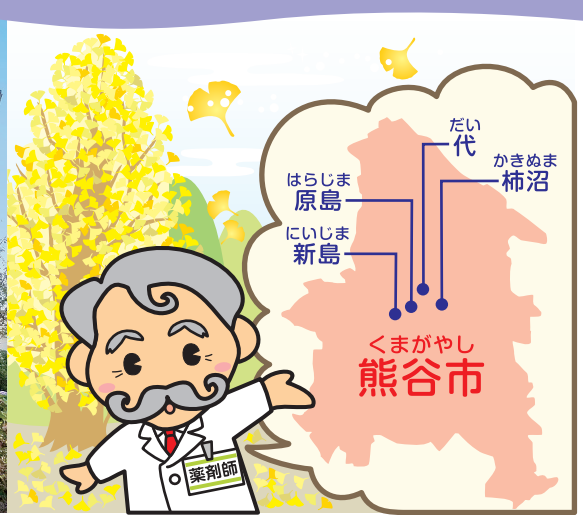


〈一般社団法人 熊谷薬剤師会　坂田　浩一〉

熊谷の地名を味わう
―北部編 第2章―

大幡・原島・代・新島・柿沼

大きなイチョウがある八幡神社（熊谷市代）



◆大幡という地名

江戸時代以降、現在の熊谷市の多くは大里郡と幡羅郡と呼ばれる郡に属していました。郡とは古代から続く役所などの区画の一つで、この郡の名称が「大幡」という地名に深く関係しています。

明治22年（1889）、大里郡に位置していた原島村と代村の二村と、幡羅郡の柿沼村と新島村の二村の合計四村が合併した際に、大里郡の「大」と、幡羅郡の「幡」の文字を合わせて、大里郡大幡村が成立しました。

その後、昭和7年（1932）に旧熊谷町に編入し、旧村名の「大幡」という地区は無くなりましたが、現在も小中学校の校名などに引き継がれています。

◆原島

「原島」の「原」は原野という地形を示すとともに、古代時代の土地を開拓する意味の「開墾」の「墾」が「ハリ」と読まれることから、これが「原」に転化したという説があります。「シマ（島）」は、人々が生活する集落を意味し、開墾地に居住した土地の歴史を伝える地名であると考えられています。

また、アイヌ語で「広い石原」を意味する「ハラシヌマ」が地名の発祥になっているという説があります。かつてこの地域には、当時の荒川と利根川の流路があり、その周辺に広い川原があったことが推定され、地名との関係が想像できます。

吉祥寺の参道（原島）

◆代

「代」は同じ読み方で、平らに開拓した場所を意味する「台」が変化した地名と考えられているほか、土地の交換を意味する「代替地」の「代」が地名に残されたという説もあります。

また、森を意味するアイヌ語の「タイ」が地名の発祥になったという研究もあります。江戸時代前期には原島と同じ村を構成していましたが、後に分離し、代村となりました。

◆柿沼

「柿沼」の地名からは、秋の季節に果実を実らせる柿の木と、沼地が存在していたことが連想できます。また、沼地の水を活用する点に着目すると、耕作の作業を、土を「かく」と表現することから、この読みに「柿」という漢字が当てられたことが推測できます。柿沼には昭和58年（1983）に廃線となった東武鉄道熊谷線の「大幡駅」がありました。

1970年代の東武鉄道熊谷線（妻沼線）「大幡駅」

◆新島

江戸時代初頭の古文書には、新しい土地を意味する「島」の文字が加わり、「玉井村新島分」という記述があります。後に「玉井新田」と称された時期を経て、「新島村」として独立したと考えられています。

また、16世紀末に旧玉井村の一部を、新島右近という人物が開拓したことから、人々が住み、新島村と命名したという伝承もあります。

一方、諸説として、江戸時代後半の古地図資料には、現在の新島の地域に「京円島村」という村があり、文化3年（1806）、新島村に改めたという記載があります。新島には中山道の一里塚があり、当時の歴史を今に伝えています。

新島の一里塚（現在は塚のみが保存されている）

主な参考資料
『埼玉県地名誌』・『地名語源辞典』・熊谷デジタルミュージアム

熊谷市立江南文化財センター
山下　祐樹

山下祐樹プロフィール：1982年、熊谷市生まれ。東京文化財研究所を経て熊谷市教育委員会にて文化財保護を担当。